



平成30年 元旦 矢筈山の登頂

『重春ゆめづくりプラン』をふりかえって

重春まちづくり協議会 藤原 孝三

重春地区のまちづくり基本計画である「重春ゆめづくりプラン」が、来住西脇市長に提案されたのが平成20年1月でありました。

この計画は重春地区の「将来の夢づくり」を策定する為に、区長会をはじめ各種団体、企業、学校園の代表が集って、一年半の取り組みを重ねながら作り上げたものであります。またこの計画書は、これが最終目的ではなく、次世代に「まちのよさを引き継ぎながらまちづくりを進める」と結んでいます。

今年はちょうど10年目に当たり、変わりゆく時代を眺めながら振り返って見たいと思います。

その振り返りの中で、大きな事は野村地区との交流であったと考えております。県の『交流広場事業』で共同の活動を行い、地域の文化交流の拠点である『茜ヶ丘複合施設・みらいえ』が完成し、今日の繁栄となっております。その他の項目に就きましては各町毎の活動が盛んであり、重春のまちづくり事業が進められております。地区の独自目標としての「頼政まつり」「矢筈山の登山」などはシンボル事業として大切にされている事に誇りを感じております。

「重春まちづくり協議会」としましては、毎年の地区ハイキングなどを通じて地域の協働意識の醸成に努めております。そして今後とも地域の良さを大切にした「まちづくり事業」を進め、「重春ゆめづくりプラン」の目標に向かって邁進いたします。



『頼政まつり』催行!!

新緑の萌える4月29日、恒例の「頼政まつり」が長明寺で行われ、弓道の演武「菅浦御前の役」で西脇市民の正木さんに出演して頂きました。演武に於いても、標的である「ヌエ」に見事な命中でした。

また、今年のまつりで「鎗矢の試射」を計画したのですが、うまく行かずに次回、再度チャレンジします。

この「頼政まつり」は、頼政公の墓参から始まり、88ヶ所巡りのハイキングやこの演武・詩吟に剣舞・「鬼灯のよさこい」など、最後に「もちまき」と、盛りだくさんのイベントがあります。

午後には、歌人の公を偲んでの「短歌会」も催され春の好日、いろいろな催しがあり、地区住民の方々や遠来の方々に歴史的で楽しい有意義な時を過ごして頂きました。



★今年度の事業★

景観づくり

板波町の登校集合場所に潤いを感じていただけるように「コスモス」を咲かせる為に8月下旬種まきを行った。

その後、全く雨が降らなかった為に発芽が遅れて、10月のシーズンに草丈が50cmと短く、花もまばらで一輪のみと言う不作でありました。

看板の設置

長明寺の88ヶ所霊場の案内看板として、四国の県境・順路の分岐点などに看板を設置しました。

遠来の方々に巡拝路の案内と本場の位置などを知って頂き、此処の良さを知って頂ける様に…!!

この霊場巡りは、距離とアップダウンがありますので…



地区ハイキング

昨年度は、重春地区の北部（和田町・高田井町・谷町）を巡るコースを計画したが“雨天中止”。今年度は、南部でのコースを計画し、歴史的な史跡を中心に「経ヶ芝古墳」をスタートに「鳴尾山城」を登り「野村城跡」などを巡るコースとしました。その為に板波町の有志により「登山路の整備」をして頂きましたが、今年度も“雨天にて中止”の止む無きに到り、残念なり!! 来年度に期待…!



高田井町とヒマラヤ村

矢筈山さえ軽やかに登れない私が、ネパール・ムスタンのその村に初めて行ったのは11年前でした。ダウラギリ8,167mとニルギリ7,061mの頂上が、同時にすぐそこに見える大渓谷の村は、西脇を出発してから6日目に辿り着いた、私にとって秘境でした。

人々は厳しい自然の中で生き抜く歴史から、助け合い融通しあって人柄が温かく、子どもたちは本当によくお手伝いをします。6~7歳でも籠を背負って山へ燃料の落ち葉や木の枝を拾いに行きます。

西脇で燃料に何の心配もなく快適な生活をする私が、その村への二度目の道中で聞いた話が衝撃でした。

地球の温暖化でヒマラヤ・ツクチェピークの氷河が崩落し、大洪水を起こして長く通行止めになった。次に大崩落が起こったら村は危ないと!

あの厳しい自然の中で生きる人々に世界中のツケが回って大災害となり襲う。理不尽でほんまに申し訳ない事だと思いました。

何の力も無い私に何が出来る?電気を消して節電する?高田井で考え考え、私に出来るのは、誰かと一緒に西脇でできる事をするという結論になり、市と市民と事業者と一緒に環境を守る「エコネットにしわき」に入れてもらいました。

西脇市認知症介護者の会

世話人 笹倉 克子(高田井町)

そこで学んだ「燃料少しでご飯が炊けるエコクッキング」に光を感じ、そのヒマラヤの村で実演すべく、播州織を携えてまた行きました。鍋を覆う古毛布と包む布さえあれば出来るのです。子どもたちが学校に行く時間を確保するのに少しでも役立てばと。

高度2,600mの村では沸点が低く、西脇と同じようにはいきませんでした。燃料節約して調理ができるという事は伝えられました。牛の餌も炊けます。

海峽を越え、山を越えてヒマラヤと高田井は繋がっています。蟻の一步と知りつつも、今日もあの村の安寧を願わずにおれません。



長明寺の四国88ヶ所霊場巡り

西脇市高松町、長明寺の「四国88ヶ所霊場」は、各地に設置されている四国霊場巡りと少々異なっている。

この霊場巡りは、江戸時代後期の文政7年(1824)春に創設されているが、これを構築する為に仲之坊の教順師が四国の霊場を訪れて、背景や歩幅で距離を調査して高松の野山を四国の土地に似せて造られている。

例えば「頼政池」を太平洋に見立て、「高松川」を瀬戸内海に見立てて、お大師霊場を配置されたものであり、第67番(大興寺)・68番(神恵院)は、巨岩に刻印された「磨崖仏」の形式で造られている。

昨年、西脇観光協会により設置された『長明寺案内図』にもそれらの事がイラストと共に記載されている。

そして ここの霊場巡りをすると実際の四国巡りと同じ功德があると伝えられている。その為に近郷や遠方からの参詣者が多く詣でておられます。

そして、この霊場のお寺は、当寺檀家の有志家によって永代寄進されており、各々の材料や造りも異なっており、それぞれの家の思いが伝わっており、適宜に補修や改修されて今日の景観を保たれております。

ぜひ一度訪ねてみて下さい!! きっと良さを感じて頂けると思います。



歳時記

とんど（左義長）

正月明けの15日夕、各地の集落では火祭り行事の「とんど」が行われます。かつては、幼年講の行事として、子供たちが各家を廻って「わら」を集めて、お正月の飾りや書き初め書を燃やして一年の幸運と学問の向上を願う行事であった。また各家でも16日の早朝に「とんど」が行われて、お飾りを焼く以外に、お餅やお団子も焼いていたが、真っ黒になった事を思い出します。

元来は宮中行儀で「三儀杖」と言われていたのが「左義長」とよばれる様になったとされる。

正月に使う折れた儀杖を焼いて「技の向上」を願ったものであり、点火して燃え上がる時に、行事に携わった人たちが「とんどやとんど」とはやしたのが由来であると伝えられている。

現在、重春地区では板波町で毎年行われている。



地域の問題

パチンコ店の進出に疑問？

重春地区は、「文教地区」として各種の学校が集まっております。各地の人口に於いても減少が進む中、新しい住民の方々が増加しており、地区として新しいまちづくり事業が行われております。

2月の下旬の新聞にもこの問題が取り上げられており、目的を隠した開発計画に問題であると考えられます。

地域が発展する事は好ましい事ですが、西脇市における玄関地区として目立つ場所に進出されると言う事には問題を感じます。



今年度の委員

- 和布町／山本治之氏 藤田佳緒氏（会計）
- 和田町／在田景侯氏 萩原和章氏
- 平野町／時本輝男氏 中島祐嗣氏 時本輝明氏
- 板波町／藤原孝三（会長）
- 高松町／浜田宣行氏
- 高田井町／藤原廣幸氏（会計監査）
- 谷町／蔭山昇氏

編集後記

今年度は、気候不順にたたられて「コスモス」が全くダメであった。地区親睦のハイキングも「雨天による中止」となり、計画のために検討して頂いた委員さんには申し訳なく感じております。そして来年度は「ゆめづくりプラン」を踏まえた事業も取り入れたいと考えます。

重春地区の皆様方に御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。（文責・藤原）

